

第4回菊池市総合計画策定審議会 要約記録

日時:平成 26 年 10 月 20 日(月)

午後 1 時 30 分～

場所:菊池市役所 本庁 3 階大会議室

(次第)

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

議事① 第 2 次菊池市総合計画について

議事② その他

4 閉会

議事① 第2次菊池市総合計画について

事務局より総合計画案の全施策内容について説明した後、出席委員全員から全般的な感想、施策の方向性や内容などについての意見をいただいた。

結論及び合意内容

- ・ 今回の審議会でも全般的な内容、各施策について、意見を出していただき、事務局で必要に応じて反映したうえでパブリックコメントを実施する。
- ・ 一つひとつの施策について、審議会の中で意見を検討、集約するには時間が十分ではないため、委員から提出していただいた意見もふまえ事務局で担当課と調整を行なっていく。
- ・ 施策の内容、文章表現については、市民に分かりやすく、読みやすくなるよう工夫する。
- ・ 専門的な用語については、注釈もしくは資料編で説明を入れる。
- ・ 市民協働については、市民と行政の責任を理解し、役割を分担することが重要。
- ・ 3年間で掲げる目標を達成するための、具体的な取り組みは、実施計画で整理する。

主な発言や意見、アイデアなど

○ 総合計画素案の書式について、全般的に文字が多く、行間が詰まっています。読む市民の対象年齢は、どのくらいを想定しているのか。馴染みのない文言には注釈を入れるか、用語集をつけるなどしてほしい。(例:熊本グリーン農業、第2次教育振興計画の策定期間など) 各施策の市民協働の対象者は、単に「市民」ではなく、想定する対象を具体的に明記してほしい。

○ 専門的な用語が多いように感じた。各施策のいろいろな取り組みに対する意欲は理解できるが、数が多すぎるので中身を詰めて、実効性の高い取り組み内容に絞るべきでは。

○ 「儲かる農業」というタイトルに違和感がある。生活していける規模の農業を営みつつ、農地保全や環境保護を理念として維持していくものだと思っているので、「誇れる農業」にタイトルを変えてはどうか。

現代では、専業農家と同様に兼業農家の存在が重要で、例えば高齢者が健康維持のための定年農業や家庭菜園づくりの喜びを見出す、楽しい農業を取り入れるのもいいと思う。

菊池をPRする材料が足りていないと思うので、観光資源以外に特産品を増やすことに取り組んでほしい。

○ 施策2「競争力のある農業体制の構築」の取り組みの1行目「提携団体」は、具体的に団体名を書いてほしい。「新規就農者」は、「認定農業者＋集落営農者＋新規就農者」に見直すべき。

○ 今の取り組みの内容は、3年以降も続くような表現になっているので、前期基本計画で何が達成できるのかという表現がいいと思う。3年間の実質的かつ重点的な取り組みについて、項目を設けてほしい。

施策4「商工業の活性化」のなかで、課題として後継者不足を指摘してあるが、今ではその段階を通り過ぎて、後継者がいても継がせられないという状況にある。また、大型店の出店を地元では止められず、地場の商業を守れない。市街地づくりの方向が見えず、拡散している状況なので、都市計画の用途地域を見直したのであれば、しっかり誘導してほしい。

○ 行政のやるべきことは広範囲にわたるといことは理解している。「市民広場」や「森のなかまちづくり」も聞こえは良いが、スタートが遅いと致命的になる。遅れば社会状況は変わり、様々な条件も変わる。計画がまとまったら具体的な戦術を練らないといけない。前期基本計画で、どこまでやるという表現が欲しい。

職員の度重なる異動により、事業責任が特定できなくなるので、行政組織や人事ローテーションの見直しを行い職員のプロ集団化が必要ではないか。

○ 施策体系は分かりやすいと思う。基本構想の広域連携のところは、県の広域施策とも関連することであり、各圏域に具体的な地域名を書いてはどうか。

施策2「競争力のある農業体制の構築」は、菊池市の意気込みが感じられるところなので、関連する施策18に記載されている担い手への農地の集積・集約化についても再掲してよいのではないか。

県北広域本部では、「九州中部大回廊」という名で県北の各地域にある資源を磨き上げ、地域をつなぐ取り組みを行なっている。観光で言えば、温泉や歴史、世界ブランドである世界農業遺産のような資源が多くあるので、どうつなげて盛り上げていくかが重要。県の立場から見ると菊池市は、資源が裕福で、福岡にも近く、バックには阿蘇がある恵まれた地域。福岡などからの観光客が自然に流れる地域なので、その人たちをいかに滞在させるかが今後の菊池市の観光振興のカギだと思う。

○ 施策が多すぎるので絞るという意見に賛成。確実に実行できるものが表現できていないと思う。市民はここまでできる、行政はここまでできるという範囲が見えない。福祉で言えば、いくつも施策がある。例えば、福祉の面では相談窓口が異なるため、一体的な総合窓口ができていない印象を受ける。安心安全に重点を置くなかでも、「菊池らしさ」にこだわりを持ち、菊池ならではの「菊池基準」を設ける必要があると思う。しかし「菊池基準」という言葉自体が明確ではないので、他の人に上手く説明できない。

施策4「商工業の活性化」の市民協働の対象者には、商工会を含めるべきである。市民協働でやるべきことは、べんりカーの充実が挙げられるのではないか。市民が誇りに思えることが重要で、自分のまちは自分で守っていく考えと、美しく管理していくという市民の思いが大切だと思う。

○ 各課の課題は書いてある以上に存在するだろうが、全体を通して見れば共通している課題がある。課と課の連携は大丈夫だろうか。例えば、市民広場の管理については、都市計画課と社会体育課の仕事がうまく連携していないような気がする。

成果指標の中で意味が理解できないものがあつた。農業関係の目標では、「農家の収入」のような指標がよいと思う。

障がい者の「自立」という言葉があるが、最近では業界のなかで「自律」を使う場合がある。自分で行うか助けを求めるかについては、自分の意思で決めるというのが「自律」である。この考えについては、担当課の職員は理解しておく必要がある。

現状を良くするには、職員のレベルアップやプロフェッショナル化、組織の体制づくりが重要。また、職員を国、県へ派遣し、パイプづくりも必要であると思う。

○ 部分的に表現が分かりにくいので、簡素化してほしい。学校教育については、少子化問題と関連する重要な問題であると思う。経費節減に寄与するには、小中高一貫教育を個人的には支持している。また武雄市のように魅力ある図書館の整備を望む。

市民協働に関連して、桜の植樹場所については、地元住民が詳しいので相談して検討すべき。その場所は枯れると忠告したのに、結局枯れてしまった例がある。

○ 内容を絞って具体的に書いてほしい。教育に関しては、自宅から通える範囲内で教育を受けられるように学校運営を維持してほしい。川辺工業団地への企業誘致で地元雇用者を増やし安定雇用が重要。

○ この審議会は、各課の計画書の束ねたものを議論する場でいいのか。もっと大きなビジョンを検討する場ではないのか。例えば、大きな道路を通して企業等の立地ニーズが高まることを提案する。河川の土手に生える雑草は、農業者に草刈してもらい飼料として活用してもらうのはどうか。

○ 農業の新規就農者とは、異業種からの参入も含むのか。

田島工業団地は大規模工場の敷地であるが、小規模の企業が立地できるように区画割や用途替えなどの変更を検討する必要があるのではないか。

子育て支援策の中で、母親の就労支援に取り組めないか。

男女共同参画の研修や会議に男性の参加が少ないので、何らなかの対策が必要ではないか。

○ 桜の植樹会については、市民と一緒にって取り組むと言うが、桜を植える場所も決められており行政主導でがっかりした。市民と行政の役割を分けて、地域住民に決定権を与えなければ、市民の意欲も上がらず、市民協働であるはずの桜プロジェクトが衰退していくと思う。市民参加型というものは、市民を単に動員するだけではなく、市民と行政の役割をしっかりと分けて、市民が興味を持ち考えていく方向性を示すところが大事。

「現状と課題」と「取り組み」の文章は、それぞれに欄があるが、読みにくいので課題の文章とそれに対応する取り組みの文章を、1対1で対応したほうが分かりやすくないか。(並列にするとか色をつけるとか)

○ 財政の状況や将来予測の問題点として、地方交付税の特例的な措置がなくなり、本来の財政に戻るの大きな負担であるのであれば、将来的な財政の見通しの説明や産業構造の変化による税収について、構想の冒頭に分析として入れてもよいのではないか。行財政改革は進んでいると思うが、市民は効率よく実施されているかに関心があるかと思う。進捗管理についても記載があるといいのでは。

成果指標は、市民に分かりやすいかたちになっているだろうか。例えば、情報セキュリティ研修受講率などという指標は有効だろうか。

議事② その他

- ・ 事務局より連絡
- ・ 次回は 11 月 13 日(木)13 時半から開催。資料は、6 日頃に郵送するので、当日まで一読をお願いします。
- ・ 13 日の審議会終了後、さらに担当課と検討、調整を行ない、必要に応じて修正を加えた上でパブリックコメントに向けた準備を行なう。
- ・ パブリックコメントの意見は、1 月下旬の最終審議会では報告し、答申内容と計画原稿の確認をお願いします。